

SEEDS

No.216 秋号
2012 /

エゾタヌキ

自然特集

影のアイドル

活動レポート

知床五湖 2年目の航海

>>知床・人・インタビュー 第14回

標津のハンター 赤石正男さん

>>知床財団 用語辞典 第3回

>>知床財団 購買部 第2回 知床カレンダー

>>スタッフは見た！第3回 ヒグマなんて怖くない！？



知床財団

SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

■写真 エゾタヌキを真正面から見つめると、向こうも見つめかえしてくる。

知

床五湖が変わります！そ
う宣言したのが昨年の本
誌春号。たくさんの関係者の想
いと10年の歳月をのせてようやく出
港した新制度は2年目を迎えてい
ます。

新制度のミッションは「多くの
方に、知床の自然を守りながら、
安全に楽しんでもらう」こと。こ
れを実現するために、様々な立場
の関係者が制度の運営に携わってい
ます。私たち知床財団に加え、
自然公園財団や知床ガイド協議
会、登録引率者と呼ばれる自然力
イドが大きな役割を担っています。
す。もちろん、現場以外でも各行
政機関や観光協会などが新制度を
支えています。

「協働と合意による制度運営」
といふ聞こえがいいですが、そ
れぞ立場や組織は異なるいわば
利害関係者で、意見の相違も対立
もあるのがあたりまえです。ただ、
以前と違うのは皆が新制度に組み
込まれていること、つまり運命共
同体なのです。利用者からの好評
もクレームも、全ての関係者には
ね返ってきます。この状況を誰か
が「私たちは同じ船に乗った」と
例えました。岩壁を離れたこの船
地球上遊歩道に入る利用者向けに行っている事前レクチャーの様子。知床五湖を安全に楽しんでもらうためには欠かせない10分間だ。

初年度は6万人に迫る利用者が、知床五湖フィールドハウスでレクチャーを受け、地上遊歩道を散策しました。これは、当初の予測を大きく上回る実績です。ヒグマとの事故や危険な遭遇事例も発生していません。初年度の利用者を対象にしたアンケート調査では8割が新制度に賛成し、7割以上が五湖での体験を「満足した」と回答しており、現場でも新制度とその意図が理解されつつあることを実感しています。

一方、不満の声も当然聞こえています。最も多いのは「戸惑い」です。新しい五湖は利用コースも変わり、時期によって利用方法も異なります。そもそも遊歩道の散策に手続きやレクチャーが必要となります。そもそも高架木道周辺には非常にまれです。また、費用負担についての不満も多く聞かれます。特にリビーターからは「規制」や「排除」と受け止められがちです。しかし、私たちは利用者

は、航海を始めました。乗客を危険にさらす航行はできませんが、後戻りもできません。

2年目の試練

2年目の今年は、6月から五湖周辺でのヒグマの目撃が増え、五湖のガイドツアー中止が頻発し、ただでさえ少ない利用枠が圧迫されました。ただし、これはまだ想定内でした。想定外だったのはこのあとです。制度上は8月1日からは「植生保護期」となり、ヒグマの目撃は次第に減っていくはずでした。しかしそ利益を過ぎてもヒグマは知床五湖周辺を利用し続け、植生保護期に遊歩道を終日利用できたのは8月1日から9月13日まででなんと4日！高架木道周辺にもヒグマが毎日のように姿を現します。駐車場から50m圏内に近づいた日も数回では收まりません。ヒト側が設計した制度や線引きに、そう

に不便を強いるために規制を行つてゐるわけでも、金儲けのために費用負担を求めているわけでもあります。これらは目的ではなく手段なのです。これらの手段を使って知床の自然とのリスクを「知り、考え、選択」する手助けを、体験から得られる感動を提供することを目指しています。

簡単に自然は従つてくれません。

変わり続ける知床五湖

「多くの利用者に楽しんでもらうこと」「安全が確保されること」「自然を守ること」、それぞれの目的は時に背反し、対立します。そのバランスと調和が今、知床五湖で問われています。徹底的な施設整備と管理によって安全を確保するのか、利用者の自覚と責任のもとにリスクを許容する場とするのか、はたまたガイド付きの利用が前面に押し出されるのか、いくつかのシナリオがありそうです。あるいは二ヶ所に完璧に応えるのか、限なく利用者を受け入れることも不可能でしょう。今私たちにできることは五湖の未来あるべき姿を明確にし、地域で共有すること、そしてそれを利用者に示すことだと思います。

ヒグマをはじめとした自然も、人間社会も常に変化に対応します。知床五湖は、それらの変化に対応する柔軟さを失わずに、試行錯誤と変化を続けながら、これからも五湖を支えるたくさんの人たちと



高架木道のすぐそばに現れた子グマのまわりには見物の人だからが。このような状態が絶対にヒグマの人慣れが進むのではなく懸念されている。

今年お盆の高架木道の展望台の様子。誰でも自由に利用できる高架木道は、お年寄りから子供まで全国からの観光客でにぎわった。



秋葉圭太 普及研修係主任

知床五湖 2年目の航海

| 文 - 秋葉圭太 普及研修係 |

床五湖が変わります！そ
う宣言したのが昨年の本
誌春号。たくさんの関係者の想
いと10年の歳月をのせてようやく出
港した新制度は2年目を迎えてい
ます。

初年度は6万人に迫る利用者が、知床五湖フィールドハウスでレクチャーを受け、地上遊歩道を散策しました。これは、当初の予測を大きく上回る実績です。ヒグマとの事故や危険な遭遇事例も発生していません。初年度の利用者を対象にしたアンケート調査では8割が新制度に賛成し、7割以上が五湖での体験を「満足した」と回答しており、現場でも新制度とその意図が理解されつつあることを実感しています。

一方、不満の声も当然聞こえてきます。最も多いのは「戸惑い」です。新しい五湖は利用コースも変わり、時期によって利用方法も異なります。そもそも遊歩道の散策に手続きやレクチャーが必要となります。そもそも高架木道周辺には非常にまれです。また、費用負担についての不満も多く聞くことがあります。特にリビーターからは「規制」や「排除」と受け止められがちです。しかし、私たちは利用者

は、航海を始めました。乗客を危険にさらす航行はできませんが、後戻りもできません。



知床五湖の新制度って？

◇ヒグマ活動期／植生保護期／自由利用期という3つの期間を設け、自由利用期以外、地上遊歩道を歩くには事前レクチャーの受講と認定料（利用料）が必要に ◇ヒグマ活動期の地上遊歩道は認定ガイド付のツアーリミット ◇地上遊歩道大ループと小ループはいずれも一方通行で高架木道に接続されるコースになった。

◇詳しくはHP <http://goko.go.jp>

知床五湖の1日

知床五湖の散策の拠点、知床五湖フィールドハウスには知床財団のスタッフが5~6名常駐しています。一体何をしているのか、ある日の様子を見てみましょう。



レクチャーを受けると、裏面に名前と住所が入った認定証がもらえます。こう見ても公文書で、偽造すると逮捕されます。

12:00 レクチャー

森に入る
パスポートです。

レクチャーは10分間で、フィールドハウス開館中は10分おきに行っています。レクチャーはまず遊歩道内で守ってほしいルールやヒグマに出会ったらどうしたらいいかの映像から始まります。そのあと最近のヒグマの出没状況などを3分ほど説明します。お年寄りから子供、団体旅行や外国人の方など、お客様は多種多様で、毎回言葉や内容をアレンジしながら臨機応変に行っています。多い時は1時間に3百人、1日に3千人の方にご覧いただいているいます。



こちらが知床五湖フィールドハウスです。

1日の始まりはミーティングです。今日1日の天気や予約状況を確認するほか、前日の遊歩道状況とヒグマ情報を共有します。必要があれば、高架木道の近くにヒグマが出没していないかどうかパトロールします。この日も木道のすぐそばに毎日のようヒグマが目撃されていた後だったので、朝いちばんに走って確認にきました。とりあえずその時はいなかつたのではホッと胸をなでおろしました。

ヒグマが好んで利用しそうな場所を中心痕跡などがないか、丹念にチェックします。



1 8:30 パトロール

この日は前日からヒグマ出没のために地上遊歩道が閉鎖されました。遊歩道を開けられるかどうか判断するために、ヒグマ対策チームの主任とともにパトロールしている最中にヒグマに会うことも当然あります。そんな時は個体識別をし、何をしているかなどをチェックします。



以前、至近距離でヒグマに威嚇されたことがあります。それ以来ヒグマ撃退スプレーがすぐされる場所にちゃんとあるか何度も腰に手をやって確かめるのが癖になってしましました。



このようなお知らせ看板があちこちにあるので掛け替えます。

1 11:00 遊歩道が開きました！

この日は遊歩道を開放することになりました。閉鎖中と書かれた看板や掲示物を架け替えたり、ホームベージャツイッターや五湖周辺地域での状況など、総合的に判断できるような素材を提供します。知床半島全体のヒグマ対策を担う知床財団だからこそできるきめ細かい情報提供です。

